

第 10 回根研究集会に参加して

大阪府立大学農学部 吉岡 真理

1998年10月3日に東京大学農学部において開催された第10回根研究集会に参加および発表をさせていただきました。根の研究会には、以前、大阪府立大学で開催された第7回研究集会の際にお手伝いをさせていただいた程度で、今回が初めての正式な(?)参加になりました。

今回の講演題数は、口頭発表およびポスター発表が各6題の計12題と多くはありませんでしたが、林木、野菜、茶、穀類などいくつかの植物について、根の生理、植物による環境浄化、画像解析による根系評価などに関する話題が提供され、どれも大変興味深く聞かせていただきました。一般の学会の講演会では演題数が多く、自分の研究に関連ある講演ばかりを依ってしまいがちですが、この集会では会場がひとつで全ての講演を拝聴でき、さまざまな分野の「根」に関する研究を伺い知る良い機会となりました。特に印象深かったのは、今回、学術特別賞を受賞された小島通雅氏らによる長根苗の展示とそれらを移植する際に利用する掃除機による砂の吸引の実演で、アイデア次第で私たちの身近なものが環境保全の一助となることを教わった気がしました。

今回の研究集会では、名古屋市立大学の谷本英一先生が学術功労賞を、また、鳥取大学乾燥地研究センターの下田代智英氏および国立医薬品食品衛生研究所の南基泰氏がそれぞれ学術奨励賞を、さらに、サヘルの会の小島通雅氏、(株)国際耕種の大沼洋康氏、(株)エコプランの坂場光男氏の3名が学術特別賞を受賞されました。一般講演に引き続いて受賞者による受賞講演が行われましたが、いずれの発表も分かりやすく解説していただき、根に関する研究を進める上に大変参考になりました。

私自身口頭発表をしましたが、とても融通の利く予鈴のお陰でゆっくりと発表ができて嬉しく思っています。それでも、実験方法が上手く伝わっていなかったのをお昼ご飯の雑談の中で知り、限られた時間の中で自分の意図するところをしっかりと伝えるにはもっと工夫が必要であることを再認識しました。貴重な発表の機会を与えてもらったことに感謝します。

また、講演会終了後に開催された懇親会で出していただいた十和田の山芋や森田先生の奥さんが七輪で焼いて下さった鱈、いかにも近所の中華料理屋のボールに入った大盛りの炒飯やチャンポン、いろいろ記憶に焼き付くメニューにも楽しませていただきました。終始和やかな雰囲気、あっという間の短い時間でしたが、得るところが多く、大変勉強になりました。最後に、今回会場の準備やら懇親会の楽しい時間を提供して下さった東京大学の関係者の方々に深く御礼申しあげます。ありがとうございました。